

高等特別支援学校設置についての新聞記事

中日新聞 2014年4月23日(市民版)より

高等特別支援校を設置

西区・江西小跡地に市検討

市は、統合によって本年度末に閉校になる西区の江西小学校跡地に、障害のある高校生が学ぶ高等特別支援学校の設置を検討する。

二十二日の市議会教育子ども委員会でも明らかにした。今後、地元住民に説明する。市によると、特別支援学校高等部の生徒数は増え続けており、就労に重点を置いた高等特別支援学校のニーズは高まっている。

高等特別支援学校は小中学生、高校生が学ぶ特別支援学校とは異なり、高校生向けに単独で設置される。工業高校のように専門の技術を学ぶのが特徴。軽度の知的障害の生徒ら

が、木工や簿記など就職に役立つ技術を学ぶ。高等特別支援学校は、県内には春日井市と豊田市に二校ある。名古屋市内にはないが、二〇一一年に、特別支援学校の市立守山養護学校高等部に産業科が併設された。昨年三月、初の卒業生二十五人全員が就職を決めた。市教委の担当者は「成果が見えた」と手応えを感じたという。

「新たな高等特別支援学校は、守山養護学校の産業科(定員二十七人)より、定員を増やせる可能性がある」と話す。

市内の特別支援学校高等部の生徒数は〇三

年度の二百九十二人が、二年度は五百八十三人と倍近くに増えた。背景について、文部科学省特別支援教育課は「発達障害など軽度の障害に対しての親らの理解が深まり、専

門の教育が受けられる特別支援学校を選ぶ生徒が増えている」と分析する。

江西、幅下、那古野の三小学校は統合され、新たな学校が一五年度に開校する。新校舎は一七年度に今の幅下小の敷地にできるが、一六年までは江西小と那古野小の校舎を

使う。(沢田千秋)